



“まち”もきれいに 自分も健康に

20年間ごみを拾い続ける すぎうら 杉浦 あきら 明さん

長年の道路の環境美化活動に対して、2022年に（公社）日本道路協会の「道路功労者表彰」を受賞した杉浦明さん（83歳／立山町在住）。定年後の2003年から、大雨などの日以外ほぼ毎日、一人で早朝5時から1時間程度西端地区内を歩き、道路のごみ拾いをされています。ある日の早朝、ごみ拾いに同行し話を伺いました。



30分程度で1袋分のごみを拾いました。ペットボトルが多かったです。



クリーンにしばた宣言の看板。西端地区の様々な場所に設置されています。

これからは体とまちのために

定年を迎えた時に、これからどうしようかと考え、まずは健康な体を維持するために歩こうと思いました。以前から通勤中にたくさんのごみが落ちていたことが気になってきたこともあり、どうせ散歩するならば、ごみ拾いも一緒にやれば一石二鳥だと思いました。また、これまでずっと仕事に専念し一生懸命やってきました、これからはまちのためになることもしたいと思ったこともきっかけの一つです。いざ始めると、かなりごみが落ちていました。しかも、豊や冷蔵庫庫などの大きいものが捨てられていたこともあって驚きました。

最初の頃は、1時間半ほどでごみ袋7〜8袋分のごみを拾いました。一人では持ちきれないので、後から車で取りに戻ったりしました。拾ったごみは自宅で分別して、捨てています。分別作業をしている中で、せっかくなら分別指導員にもなろうと思いい、同じ頃から分別指導員も始め、今でも続いています。ごみの量が多いと、拾うことよりもきちんと捨てるの方が大変でした。特にペットボトルの飲みかけのごみが一番困ります。捨てるためには中身を捨てて洗わなくてはなりません。それが何本も

あると、全部捨てるのにかなり時間と手間がかかります。

汚くなるのは簡単

毎日ごみを拾って、きれいになってくるとポイ捨てる人が少なくなるのか、その場所ではごみが落ちていないことが減ってきます。例えば、自動販売機の周りにごみが多いなと感じたら、その場所を3〜4か月徹底的にごみを拾います。そうすると、ごみを捨てる人が減り、自然にきれいになってきます。きれいなようになってくると、やってよかったなと思えますね。他のごみが多い場所を見つけては、同じように拾っています。自分のやっていることが少しは効果があつたかなと実感できるところです。

それでも、いまだにポイ捨てる人がいるのか、ごみが落ちていたのが現実です。汚くするのは一瞬ですが、きれいにするには3〜4か月もかかります。汚くすることよりも、きれいにすることの方が何倍も大変です。また、大量のごみを拾うより、毎日少しずつ拾った方が簡単だと考えています。草だって、成長してしっかり根がはっているものよりも、新芽の方が抜きやすいです。道路の継ぎ目などに生えてくる雑草も、ごみ拾いの時に一緒に抜いています。

やるのが当たり前

昔から自分で決めたことは徹底的にやらないと気が済まない性格なので、決めた以上はやっていきます。「毎日やる」という考えでいるので、よっぽどの天気でない限り「今日はやめよう」とはありません。ただし、こういうことは他の人に強制したりするものではないので、誰かに一緒にやろうと言うことはしません。誰になんと言われなくても、「自分で決めたことだからやる」それだけです。

碧南市中がきれいになれば

長年続けていて、西端地区はきれいになったと感じています。また、2005年に「クリーンにしばた宣言」が作成されたことも意識しています。みんなが実践すれば、そのとおりの住みやすい町になると思います。自分以外にも市内のいろいろな地区で同じようにごみを拾う人がいれば、碧南市がもっときれいになると思います。みんなが自発的にごみを拾うようになるとうれしいですね。毎日歩いているおかげか、中学生の頃のズボンがまだ履けます。90歳になっても体が健康である限り、これからもごみ拾いを続けていきたいと思っています。